

平成29年度 小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業

1 目的

札幌市内の小規模企業が行う新製品・新技術開発や開発の前段階の取り組み(試験、試作、調査等)、後段階の取り組み(販路開拓・拡大)を支援することによって、小規模企業の付加価値向上を促進するとともに、市内ものづくり産業の振興を図ることを目的としています。

2 補助対象者

下記の要件をすべて満たす小規模企業者

- (1) 札幌市内に本社を有していること
- (2) 設立後1年以上経過し、事業を継続して実施する見通しがあること
- (3) 事業を実施するための経営資源、人材等を有していること

【小規模企業とは】

業種	常時使用する従業員
(1) 製造業、建設業、運輸業、その他の業種((2)を除く)	20人以下
(2)卸売業、サービス業、小売業	5人以下

3 補助対象事業

「金属・機械」、「食」や「環境・エネルギー」、「健康福祉・医療」、「IT」などの「ものづくり」に関する以下の何れかの取り組み

- 開発の前段階の取り組み(試験、試作、調査等)
- 新製品・新技術開発の取り組み
- 開発の後段階の取り組み(販路開拓・拡大)

4 補助金額

補助対象経費の2/3以内、上限額200万円

5 補助件数

3件程度

(平成29年度採択案件)

- ・道産自転車タクシー車両の開発(株式会社Will-E)
- ・(仮称)ソーラー雪氷コンテナの動作検証事業(五島冷熱株式会社)
- ・手持ち式回転ドリルによる、コンクリート乾式穿孔時の切削粉塵を回収する集塵機能付きシャンクと専用乾式ダイヤモンドコアビットの開発(株式会社コバルテック)
- ・重要警備対策に適應する「寒地型伸縮式車両阻止柵」の開発(株式会社白石ゴム製作所)
- ・高耐食性コーティング皮膜の低コスト施工技術の開発と販路拡大に関する製品開発(株式会社ディ・ビー・シー・システム研究所)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 人件費^{※1} ■ 旅費 ■ 原材料・消耗品費 ■ 通信・運搬費 ■ 機器リース費 ■ 機器購入費^{※2}
- 施設及び設備等賃借料 ■ 外注費(調査・分析・加工等) ■ 出展費
- その他本事業の遂行に必要なと認められる経費

※1 人件費については補助対象経費総額の1/2以内かつ150万円を限度とする

※2 機器購入費については補助対象経費総額の2/3以内かつ200万円を限度とする

7 募集期間

平成29年6月5日～7月20日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 産業企画推進部

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1

TEL:011-820-2062 URL:http://www.sec.or.jp/other/2009.html

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社 Will-E

道産自転車タクシー車両の開発

- 所在地/札幌市白石区川下2113-150
- TEL/011-376-5316 ●FAX/011-376-5317
- 代表者/代表取締役 根本 英希
- 設立/2003(平成15)年1月 ●従業員数/3名
- URL/http://www.will-e.com/

「あったらいいなあ」に添えて、意思・志(Will)を持った技術(Engineering)を提供することを目指すものづくり支援企業。

"想像"を"創造"するサービスで、実用的、独創的な試作品を製作する。

未来の住みよい暮らしに想いを馳せ、新しい街づくりを見据えた次世代モビリティの開発を進める。

このままでいいの?

道産自転車タクシーで街づくりの未来を切り拓こう!

想像しよう、今できること

自動車中心の生活を想定してつくられた「今の街」は、未来に向かってどう変化したらよいか?どうあるべきか?をモビリティの視点から考え活動しようと、2016年、「イモビープロジェクト」が始動した。現在、このプロジェクトの柱になっているのが、自転車タクシーの開発。燃料を必要とせず、狭い道路や通路でも安全に走行でき、運動にもなる優れたものである。ボディで囲えば、天候の心配もなく、荷物も積める。十分な安定性を確保すれば、高齢者でも安心して一人で外出できるようになる。実は、このような乗り物は既にあり、札幌市内で見かけることもあるだろう。しかし、それらは外国産であるため、購入時にもメンテナンスにもコストがかかりすぎている。道産の自転車タクシーができれば、価格が抑えられて普及が進むのではと考えた。さらに、市内で大量に回収される廃棄自転車を活用することで、製作費用の軽減と資源の再利用も実現させることができる。

具現化への道のり

開発中は、常に「次世代社会」が想像された。現在を生きる自分達がつくるものが、本当に未来の人々の役に立てるのか?時空を超えた壮大なテーマを考えながら、一つひとつ手作業で3輪自転車

が組みあがっていく。今回の試作車は、本体は一人乗りで、定員2名の客車を連結できるようになっている。完成後は、イモビープロジェクトのメンバーである特定NPO法人エコ・モビリティサポロと協働し、真駒内地区での試験運用を目指す。主に高齢者の買い物や通院など、地区内の移動手段としての実用性や運用の仕方などを検証する予定だ。

モビリティには乗り物の意味の他に、流動性という意味もある。低負荷で簡便な乗り物である自転車タクシーは、人や物をもっとスマートに流れる時代への第一歩となる。

難問を解くのは喜び 自らの既存概念を打ち破ることが 永遠の課題

この支援制度では、人件費も補助の対象となるので、人手が重要となる試作品の製作をする上でとても助かりました。また、さっぽろ産業振興財団が開催する推進会議で、事業の進め方なども相談でき、悩みや不安を解消しながら安心して開発を進めることができました。小規模事業者用にいると考えると考えられた制度だと思います。

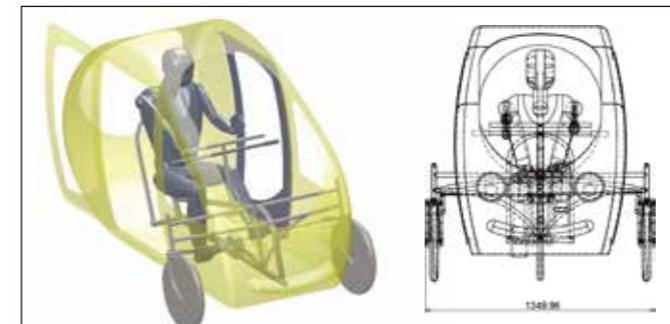


代表取締役
根本 英希

プロジェクトの主役 イモビー



自転車タクシーの運転席



廃棄自転車を使った3輪自転車の骨格

